

# 総務教育常任委員会資料

(平成21年6月25日)

## 【件名】

- 1 公立学校施設の耐震改修状況調査の結果について（教育環境課）……………1
- 2 特別支援学校における教育の在り方の検討について（特別支援教育課）…2
- 3 心のふれあいプロジェクト指導者養成事業の開始について  
（家庭・地域教育課）…5
- 4 鳥取県家庭教育推進協力企業「家族のきずな」写真コンクールの実施に  
ついて（家庭・地域教育課）……………7
- 5 県内文化財建造物の国新規登録について（文化財課）……………9
- 6 国史跡青谷上寺地遺跡の発掘調査について（文化財課）……………11
- 7 企画展「ベルギー王立美術館コレクションーベルギー近代絵画のあゆみー  
印象派からフォーヴへ」の開催について（博物館）……………12

教 育 委 員 会

# 公立学校施設の耐震改修状況調査の結果について

平成21年6月25日

教育環境課

## 1 耐震診断実施率状況

○小中学校の非木造施設については、94.5%(対前年度 12.3ポイント増)

		耐震診断実施率(注)				
		平成19年4月1日	平成20年4月1日	平成21年4月1日	「耐震診断実施中」と「H21年度中実施予定」がある棟の割合	「耐震診断実施中」と「H21年度中実施予定」がある棟を加えた実施率
			(A)	(A)	(B)	(A)+(B)
非木造施設	小中学校	64.9% (89.4%)	82.2% (93.8%)	94.5% (95.7%)	0.5% (1.8%)	95.0% (97.5%)
	高等学校	85.7% (88.2%)	87.9% (90.5%)	91.6% (93.1%)	0.0% (2.9%)	91.6% (96.0%)
	特別支援学校	96.3% (92.1%)	96.4% (95.3%)	100.0% (95.5%)	0.0% (1.8%)	100.0% (97.3%)
	幼稚園	0.0% (63.8%)	0.0% (74.9%)	0.0% (79.1%)	0.0% (8.1%)	0.0% (87.2%)
木造施設	小中学校	—	—	0.0% (12.0%)	33.3% (9.7%)	33.3% (21.7%)
	高等学校	—	—	(4.5%)	(11.4%)	(15.9%)
	特別支援学校	—	—	(75.0%)	(0.0%)	(75.0%)
	幼稚園	—	—	(16.3%)	(10.2%)	(26.5%)

※1 (注) 旧耐震基準建物(昭和56年以前建築)のうち耐震診断実施済み棟数の割合

※2 ( )内の数値は全国の数値

## 2 耐震化状況

○小中学校の非木造施設については62.9%(対前年度 4.2ポイント増)

○高等学校の非木造施設については50.6%(対前年度 3.6ポイント増)

		耐震化率(注)		
		平成19年4月1日	平成20年4月1日	平成21年4月1日
非木造施設	小中学校	53.8% (58.6%)	58.7% (62.3%)	62.9% (67.0%)
	高等学校	46.2% (60.9%)	47.0% (64.4%)	50.6% (67.8%)
	特別支援学校	84.4% (78.2%)	82.6% (80.5%)	84.8% (82.8%)
	幼稚園	50.0% (54.5%)	55.6% (57.8%)	55.6% (60.1%)
木造施設	小中学校	—	—	70.0% (63.4%)
	高等学校	—	—	100.0% (61.1%)
	特別支援学校	—	—	(91.1%)
	幼稚園	—	—	100.0% (77.0%)

※1 (注) 全建物のうち、耐震性がある棟数(昭和57年以降建築の棟数及び昭和56年以前建築で耐震性がある棟と耐震補強済みの棟)の割合

※2 ( )内の数値は全国の数値

## 3 公立小中学校の耐震性がない建物の耐震診断結果分布状況

単位:棟

$I_s < 0.3$	$0.3 \leq I_s < 0.5$	$0.5 \leq I_s < 0.6$	$0.6 \leq I_s < 0.7$	計
30 (11.5%)	131 (50.2%)	67 (25.7%)	33 (12.6%)	261 (100.0%)

※ 国土交通省告示第184号(平成18年)において $I_s$ 値について、 $I_s$ 値0.3未満は、大規模地震に対して倒壊または崩壊する危険性が高いとされ、 $I_s$ 値0.6以上は、倒壊または崩壊する危険性が低いとされている。

## 特別支援学校における教育の在り方の検討について

平成21年6月25日  
特別支援教育課

### 1 目的

平成20年11月、鳥取県教育審議会から「鳥取県における今後の特別支援教育の在り方について」答申が出された。それを受けて、県教育委員会において、高等特別支援学校や分校・分教室の設置及び発達障害教育拠点の設置について検討する必要があるため、検討委員会を設置して今後の方向性を具体的に協議・決定する。

#### <県教育審議会答申より抜粋>

##### 【課題】

- 知的障害者を対象とする特別支援学校在籍児童生徒数の増加に伴う施設整備及び障害の重度・重複化、多様化に応じた教育の充実

##### 【施策の方向性】

- 知的障害者を対象とする特別支援学校高等部生徒の実態や教育的ニーズ等を踏まえた上で、高等特別支援学校の設置または県立学校内に分校や分教室を設置等すること等を検討する。
- 自閉症者への指導・支援を充実するために、県立特別支援学校に発達障害教育拠点の設置を検討していく。〔東部圏域・西部圏域〕

### 2 特別支援学校における教育の在り方検討委員会について

(1) 委員15名【事務局：特別支援教育課（教育環境課・高等学校課・小中学校課）】

- ・学識経験者
- ・学校関係者（中学校長、高等学校長、特別支援学校長）
- ・保護者代表、関係団体（福祉・労働関係）代表
- ・行政関係者（市町村教育長、福祉保健部子ども発達支援室、商工労働部雇用人材総室）

(2) 主な検討内容

- ① 高等特別支援学校等について
- ② 発達障害教育拠点について

(3) 進捗状況

期 日	主 な 内 容
平成21年2月18日（水）	特別支援学校における教育の在り方検討準備委員会 「在り方検討委員会」について〔委員、内容、今後の予定等〕
平成21年5月8日～21日	<※アンケート調査の実施（意向調査、教室使用状況等）>
平成21年5月26日（火）	第1回検討委員会（現状と課題、趣旨、今後の予定等の説明）
平成21年6月11日～12日	<※先進地視察 検討委員5名（大阪府・兵庫県）>
平成21年6月23日（火）	第2回検討委員会（先進地視察の報告、設置形態等の検討）

#### 第1回特別支援学校における教育の在り方検討委員会〔概要〕

1 日 時：平成21年5月26日（火） 午後1時30分～午後4時

2 出席者：12名（委員15名）

3 内 容

(1) 説明及び報告

- 特別支援学校における教育の在り方検討事業について
- 鳥取県における特別支援学校（知的障害）の現状と課題について
- 調査結果報告並びに学校視察報告（事務局）

(2) 議 事

- 特別支援学校における教育の在り方について
  - ・高等特別支援学校又は特別支援学校（高等部）の分校・分教室の必要性
  - ・設置形態及び設置内容について
- 今後の予定等について

#### 4 主な意見

##### (1) 保護者

- ・ 高等学校には空き教室があり、分校・分教室はもっと簡単にできると思っていた。
- ・ 分校・分教室は小中学校の特別支援学級のようなものをイメージした。
- ・ 希望者全員が入学できると思っていた。
- ・ 分教室だと高校の生徒との交流が可能と思う。
- ・ 意向調査の文章等を読んだだけでは勘違いしていた。今日、話を聞いて高等特別支援学校設置がよいと思った。寄宿舎は必要。
- ・ 専門性の高い学校を作ってほしい。

##### (2) 学校関係者

- ・ 未使用教室がこんなに少ないと思わなかった。
- ・ 教員の質の確保が必要と考える。
- ・ 就労に向けた教育という点で高等特別支援学校の意義がある。
- ・ 県立学校だけでなく、市町村立学校の空き校舎の活用も選択肢に入れてはどうか。
- ・ 中学校からの出口としては新しい選択肢になる。
- ・ どの程度の規模を想定した学校になるのか。
- ・ 高等学校の生徒の実態も様々で、生徒のニーズに応じた授業形態（選択制）をとっているの  
で、そのため教室が必要。
- ・ 理想的には高等特別支援学校設置と考える。将来的にはその分校・分教室を設置してはどうか。

##### (3) 関係機関等

- ・ 一般就労を希望する人が増えると受け皿が必要となる。
- ・ 高等特別支援学校、分校・分教室、それぞれにメリット、デメリットがある。
- ・ 就労支援の立場から言えば、学校をつくり集中的に専門的な教育を行う方がよいと思う。
- ・ 設置形態について、3案くらい具体案を提示してほしい。
- ・ 現在ある特別支援学校も含めて、(県が)全体の底上げを考えていることに安心した。  
二極化するのではなく、互いが切磋琢磨していく存在になってほしい。

##### (4) その他

- ・ 発達障害の生徒の進路についても考えてほしい。

#### 5 第1回のまとめ

- 軽度の知的障害を対象とする学校設置が必要であること。
- 高等特別支援学校の設置が望ましいという意見が多かったこと。
- 社会自立と就労を目指した教育内容とすること。

#### 3 今後の予定

(\*開催予定日)

期日(予定)	主な内容
*平成21年 7月2日・3日	<※高等特別支援学校等設置についての説明会(3会場)>
*平成21年 7月23日(木)	第3回検討委員会(設置内容等検討①)
平成21年 9月 日	第4回検討委員会(設置内容等検討②)
平成21年10月 日	教育委員会へ検討状況を報告・協議、予算要求等

#### 【参考】

<※高等特別支援学校等設置についての説明会について>

期 日：平成21年7月2日・3日

会 場：東部・中部・西部地区(3会場)

主な内容：○ 説明「高等特別支援学校及び特別支援学校分校・分教室の違いと特徴について」等  
○ 意見交換

参 加 者：保護者、学校関係者 等

# 高等特別支援学校等設置についての説明会

主 催：鳥取県教育委員会

鳥取県における今後の特別支援教育の在り方

## 『高等特別支援学校又は分校・分教室』の設置について

※ 皆様のご意見をお聴かせください

現在、「在り方検討委員会」において、知的障害の生徒を対象とする「高等特別支援学校又は既存の各特別支援学校高等部の分校・分教室」の設置を検討しています。詳しくは特別支援教育課ホームページもご覧ください。  
(<http://www.pref.tottori.lg.jp/dd.aspx?menuid=4229>)

### 1 日時・会場

#### 【西部会場】

日時：平成21年7月2日（木） 午後1時30分～3時30分

場所：西部総合事務所講堂

（米子市糺町1丁目160番地 TEL 0859-31-9771（西部教育局））

#### 【中部会場】

日時：平成21年7月3日（金） 午後1時30分～3時30分

場所：中部総合事務所講堂

（倉吉市東巖城町2番地 TEL 0858-23-3250（中部教育局））

#### 【東部会場】

日時：平成21年7月3日（金） 午前9時30分～11時30分

場所：鳥取県教育センター大研修室

（鳥取市湖山町北5丁目201番地 TEL 0857-28-2321）

### 2 おもな内容

#### (1) 説明

- ・高等特別支援学校について
- ・分校・分教室について
- ・その違いと特徴について

#### (2) 意見交換



### 3 参加者

保護者、学校関係者等

#### <問合せ先>

鳥取県教育委員会特別支援教育課

担当：藤田、足立

TEL 0857-26-7598

FAX 0857-26-8101

E-mail [tokubetusienkyoiku@pref.tottori.jp](mailto:tokubetusienkyoiku@pref.tottori.jp)

# 心のふれあいプロジェクト指導者養成事業の開始について

平成21年6月25日  
家庭・地域教育課

## 1 趣 旨

平成18年度から平成20年度までの3年間、NPOに委託し、赤ちゃんとその保護者と小・中・高生がふれあう機会をつくり、命の尊さを深く認識したり、コミュニケーション能力の向上をさせたりするための事業を実施してきた。事業の効果は全県的に周知できたが、今後、この優れた事業を継続するためにも、県東・中・西部地区各地域に指導者を養成することが必要である。そこで、指導者養成のための事業を展開する。

## 2 これまでの取組の概要

### 指導者養成講座1

(1) 開催期日

平成21年5月8日(金) 午後3時00分～午後5時00分

(2) 会 場

倉吉市立東中学校 第1特別活動室

(3) 内 容

高塚人志氏(鳥取大学医学部准教授)を招いて「赤ちゃん登校日」の理解とコミュニケーションについて学ぶ体験学習

参加者4名(湯梨浜町保健師、湯梨浜町助産婦、三朝町教育委員会指導主事、倉吉市教育委員会指導主事)

### 指導者養成講座2

(1) 開催期日

平成21年5月18日(月) 午前8時45分～午後12時35分

(2) 会 場

倉吉市立東中学校 第3多目的室

(3) 内 容

高塚人志氏(鳥取大学医学部准教授)を招いて「赤ちゃん登校日」の事前学習として、基本的なマナーとコミュニケーションについて学習

### 「赤ちゃん登校日」授業

(1) 開催期日

平成21年5月24日(日) 午前9時45分～午前11時45分

(2) 会 場

倉吉市立東中学校 第3多目的室

(3) 内 容

#### 《授業のポイント》

- ・「赤ちゃん登校日」とは、乳児や乳児の保護者を学校に招き、生徒と継続して関わる体験をとおして、赤ちゃんの成長や命の尊さを心と肌で実感しながらコミュニケーションについて学び、人の愛情に気づくなど、参加者相互に気づきや学びがある授業
- ・高塚人志氏と技術・家庭科教諭の齋尾里美氏のチームティーチング
- ・6グループの乳児・保護者が学校に来られ、協力
- ・生徒の保護者1名参観
- ・「命とは何か」、「一人一人の存在とは何か」を考えたり、「過去と現在の自分と

家族との間の絆」を思い起こしたり、赤ちゃんと接するための心構えを確認

- ・お互いが気持ち良く過ごすためには、より良いコミュニケーションの技能を身につけることと、礼儀や感謝の気持ちを大切にすることが大事であると強調

#### 《生徒の様子》

- ・実際に乳児と触れ合う場面になると、緊張のために表情が硬かった生徒達もすぐに打ち解け、笑顔で乳児を抱きかかえたり、おむつを取り換えたりした。
- ・生徒達の感想は、「コミュニケーションの難しさを感じたが、次はもっと努力してコミュニケーションをとりたい」、「なかなか笑ってくれなかったが、笑ってくれたときは嬉しかった」、「泣かれて心配だったが、だっこできたときは嬉しかった」、「笑顔が大切だということがわかり、以前より笑顔でいることが多くなった」、「赤ちゃんに何かしてあげるといふことに喜びを感じた」、「次回の赤ちゃん登校日が楽しみ」

#### 《参観されていた生徒保護者の感想》

「我が子は普段家では照れくささもあって、なかなか会話を家ではしてくれない。しかし、今日の様子を見ると、照れながらも赤ちゃんに接している姿を見ることができて良かった」

### 3 今後の予定

#### ○中部地区

##### 指導者養成講座1

期日／9月9日(水) 15:00～17:00

場所／倉吉市立東中学校特活室1

内容／「赤ちゃん登校日」の理解とコミュニケーションについて学ぶ体験学習にトライ

##### 指導者養成講座2

期日／9月14日(月)

場所／倉吉東中学校第3多目的室

#### ○西部地区

##### 指導者養成講座1

期日／8月19日(水) 13:00～15:00(予定)

場所／未定

内容／「赤ちゃん登校日」の理解とコミュニケーションについて学ぶ体験学習にトライ

※南部町教育振興会講演会教職員研修と兼ねる

##### 指導者養成講座2

◇「赤ちゃん登校日」の事前学習

期日／10月19日(月) 14:00～15:30 5年1組

場所／南部町立西伯小学校

内容／「赤ちゃん登校日」の事前学習(基本的マナーとコミュニケーションについて学ぶ)

期日／10月26日(月) 14:00～15:30 5年2組

場所／南部町立西伯小学校

内容／「赤ちゃん登校日」の事前学習(基本的マナーとコミュニケーションについて学ぶ)

##### 指導者養成講座3

期日／平成22年1月19日(火) 15:00～17:00

場所／倉吉市立東中学校特活室1

内容／「赤ちゃん登校日」実践のためのスキルアップ研修

## 鳥取県家庭教育推進協力企業「家族のきずな」写真コンクールの実施について

平成21年6月25日

家庭・地域教育課

### 1 趣旨

鳥取県家庭教育推進協力企業制度協力企業のさまざまな取り組みの中で、親子のふれあいやきずなをテーマに写真コンクールを開催し、鳥取県家庭教育推進協力企業制度を再認識していただくとともに、入賞作品をリーフレット等に活用し、各協力企業の取り組みを県内に紹介していく。

### 2 参加資格

家庭教育推進協力企業及び従業員。応募は一人5点までとする。

### 3 作品受付期間

平成21年7月1日（水）から平成22年1月8日（金）必着。

### 4 作品の内容

各協力企業の取組の中で親子のふれあいの様子や親子のきずながわかるもの。

### 5 作品の審査

審査会を開催（審査員4名）し、入賞作品を決定。

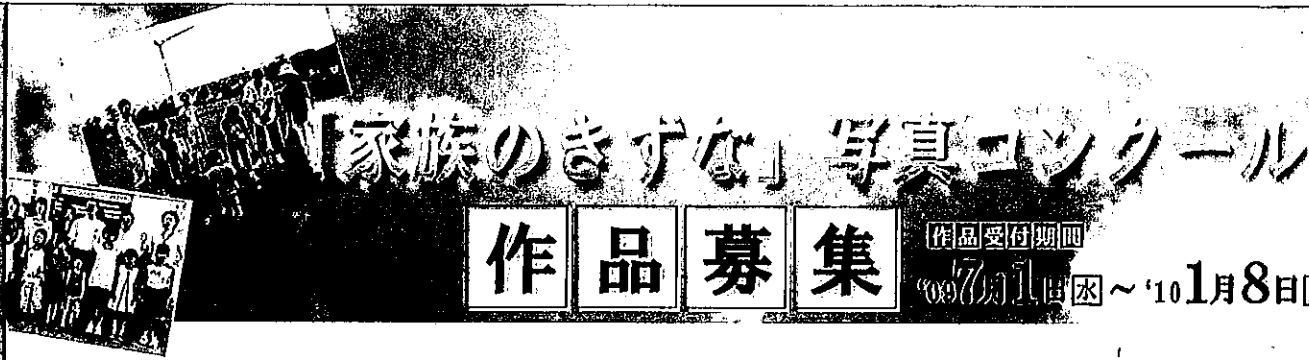
### 6 入選発表 第3回協定式（平成22年3月予定）終了後、表彰を行う。

### 7 賞名、副賞

- 最優秀賞・・・・・・・・・・・・・・・・1点（賞状、図書カード3,000円）
- 優秀賞・・・・・・・・・・・・・・・・1点（賞状、図書カード2,000円）
- 奨励賞・・・・・・・・・・・・・・・・2点（賞状、図書カード1,000円）
- 佳作・・・・・・・・・・・・・・・・10点（賞状、図書カード500円）

### 8 主催 鳥取県教育委員会





テーマは「家族のきずな」です。

鳥取県家庭教育推進協力企業制度の協力企業のさまざまな取り組みの中で、親子のふれあいやきずなをテーマに写真コンクールを開催し、鳥取県家庭教育推進協力企業制度を再認識していただくとともに、入賞作品をリーフレット等に活用し、各協力企業の取り組みを県内に紹介していきます。

### 応募のしかた

- 参加資格 家庭教育推進協力企業及び従業員。応募は一人5点までとする。
- 作品規格 ①サイズL判  
②カラー・モノクロの別は問わない。  
③平成21年1月1日から12月31日までに撮影したもの。
- 作品受付期間 平成21年7月1日(水)から平成22年1月8日(金)必着。
- 作品の内容 各協力企業の取組の中で親子のふれあいの様子や親子のきずなが深まっているもの。
- 応募方法 ・応募票に必要事項を記載し、作品裏面にしっかりとセロハンテープで貼り付けて郵送してください。  
・人物が被写体の場合は、本人から応募について承諾を得てください。
- 応募先 〒680-8570 鳥取市東町1丁目271番地  
鳥取県教育委員会家庭・地域教育課「家族のきずな写真コンクール係」
- 問い合わせ先 TEL 0857-26-7521 担当/森本
- 作品の審査 審査会を開催し、入賞作品を決定します。
- 入選発表 第3回協定式(平成22年3月予定)終了後、表彰
- 作品の返却 原則として返却しません。  
なお、入賞されたかたには原版フィルム又はデジタルデータの提出を求める場合もあります。
- その他 応募作品の著作権は応募者に帰属しますが、主催者は広報などに必要な印刷物に作品を掲載できるものとしします。



- 最優秀賞・・・1点(賞状、図書カード3,000円)
- 優秀賞・・・1点(賞状、図書カード2,000円)
- 奨励賞・・・2点(賞状、図書カード1,000円)
- 佳作・・・10点(賞状、図書カード500円)

主催 鳥取県教育委員会

きりとり線

### 「家族のきずな」写真コンクール **応募票** ※作品1点につき1枚作成

受付番号	作品番号
区 分 <input type="checkbox"/> 学校に行ってみよう <input type="checkbox"/> 仕事を語ろう、仕事を見せよう	
いずれかに☑してください <input type="checkbox"/> 子どもの体験活動をひろげよう <input type="checkbox"/> 我が社の子育て支援	
企業名	
住所	
氏 名	
TEL	
作品の題名	
エピソード(写真の簡単な説明)	

県内文化財建造物の国新規登録について

平成21年6月25日  
文化財課

平成21年6月19日（金）に国の文化審議会（会長 西原鈴子）において、下記の文化財を国登録有形文化財に登録する旨の答申が行われました。

記

新規登録が答申された文化財建造物

名 称	所在の場 所	特 徴 等	建設年代
旧江尾発電所本館	江府町久連	<p>日野川に面して経つ、石造の旧水力発電所施設。大正8年に山陰電気株式会社によって建てられ、昭和52年まで稼働していた。</p> <p>県内では珍しい石造建築で、2階建の北館と平屋建の南館で構成されている。当初の屋根は瓦葺きだったが、平成12年の鳥取西部地震後、金属板に葺き替えられた。軒にはコーニスと呼ばれる段状の装飾が施されるほか、窓の上部のデザインに数種類のアーチ型を使い分けるなど、西洋建築の様式が取り入れられている。内部には、発電機室や配電盤室の他、畳敷きの休憩室も残されている。また、屋根を支える構造には、中央に束を立てて、斜材を入れるキングポストラスと呼ばれる近代以降に用いられる構造を見ることができる。</p> <p>構造、デザインともに近代らしさを持ち、意匠的にも美しい。地域のランドマークとなっており、国土の歴史的景観に寄与するものとして評価された。</p> <p>なお、平成19年度には、土木学会選奨土木遺産に認定された。</p>	大正8年建築/ 平成12年改修

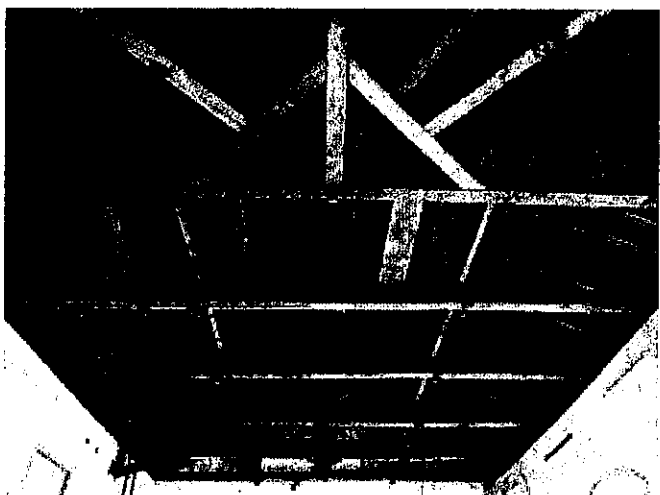
【参考1：登録が答申された建造物の写真】



外 観



旧発電機室内部



キングポストトラス

【参考2：鳥取県の国登録文化財、国・県指定文化財の件数（今回の登録含む）】

国登録文化財	国指定文化財	県指定文化財
(143)	(15)	(18)
144	114	230
うち江府町(1)	(0)	(0)
1	0	8

( ) 内は建造物の数

【参考3：全国の登録件数】

登 録 数	今回答申分		累 計
		116件	
関係市町村	37市町村(区)		731市町村(区)
関係都道府県	23都道府県		47都道府県
時代別登録件数	江戸以前	28件	1,255件
	明治	22件	2,512件
	大正	24件	1,663件
	昭和	42件	2,198件

# 国史跡青谷上寺地遺跡の発掘調査について

平成21年6月25日  
文化財課

## 1 調査目的

国史跡青谷上寺地遺跡は、これまでの調査から、溝で区画された「中心域」(弥生時代の人々の活動拠点)とその南西側に広がる水田域、東から北側に広がる水域(内海)で構成されていたことがわかってきているが、今後の遺跡の整備活用に必要なデータ等を得るため、その実態をさらに解明する必要がある。

今回の第11次調査は青谷上寺地遺跡が最も栄えた時期である、弥生時代終わりごろ(約1800年前)の集落全体像を明らかにするため、遺跡中心域南側における集落様相の解明を目的とした発掘調査を実施します。

- 遺跡中心域西側を区画しながらも南に伸びる溝(SD11)の延長部分の追求と解明
- 中心域と周辺域との境界部分の機能(出入口等)の検討

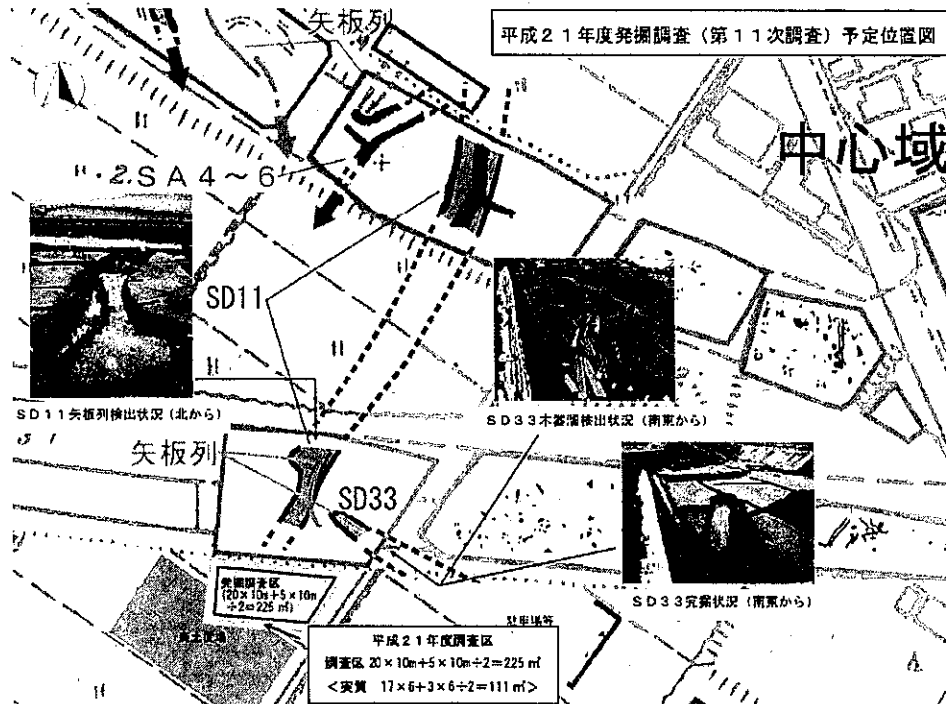
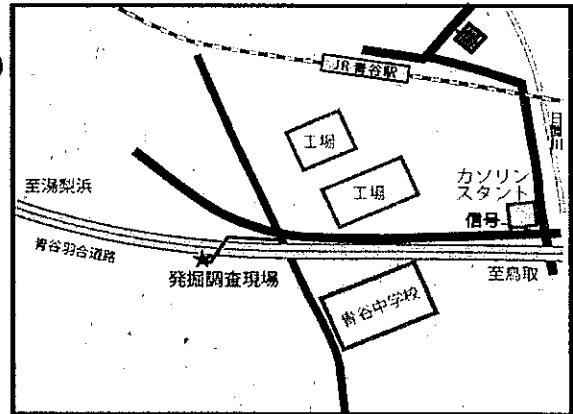
2 調査期間 7月1日(水)～10月下旬(予定)

3 調査箇所 右図及び下図参照

4 調査面積 225㎡

## 5 調査の公開

- 7月2日(木)から調査終了までの平日。  
午前9時から午後4時まで。
- 公開時間中は、調査担当職員が調査状況について説明します。
- 天候等の状況により調査を行わない日があります。
- 現地には駐車場がありません。青谷上寺地遺跡展示館を御利用ください。



企画展 「ベルギー王立美術館コレクション

「ベルギー近代絵画のあゆみー 印象派からフォーヴへ」の開催について

平成21年6月25日  
博 物 館

1 企画展概要

■ 展覧会名	ベルギー王立美術館コレクション ベルギー近代絵画のあゆみ 印象派からフォーヴへ
■ 会 期	平成21年7月22日(水)～8月30日(日) 会期中無休
■ 会 場	鳥取県立博物館 第1・2展示室
■ 主 催	鳥取県立博物館、読売新聞大阪本社、美術館連絡協議会、ベルギー王立美術館
■ 後 援	ベルギー大使館
■ 観 覧 料	一般1,000円 (前売・団体800円)
■ 概 要	ベルギー王国最大かつ最高の美術館と評価されるベルギー王立美術館の選りすぐりのフランスおよびベルギーの近代絵画69点により、フランスに起源をもつ印象派などの芸術運動と、それらを受け入れながら発展したベルギーの近代絵画の流れを紹介します。

2 主な出品作品

バルビゾン派のコローヤルソー、写実主義を提唱したクールベ、ルノワールやシスレーなどの印象派、フォーヴィスム(野獣派)のマティスなどフランスの画家の作品を展示するとともに、それらに影響を受けながら独自の表現を追い求めたベルギーの画家たちの作品を展示します。

- ・カミーユ・コロー 《セーヴルの高地》
- ・ギュスターヴ・クールベ 《スペインの踊り子》
- ・アルフレッド・シスレー 《ルーヴシエンヌの道》
- ・テオフィル・ファン・レイセルベルヘ 《シャルル・モース夫人の肖像》
- ・エミール・クラウス 《ロンドンの眺め》
- ・アンリ・マティス 《静物》
- ・ピエール・ボナール 《逆光の中の裸婦》 等

3 関連事業

開催日	名 称	講 師
8月2日(日)	講演会Ⅰ 「ベルギー近代絵画と印象派」	富田 章 氏 (サントリーミュージアム[天保山]学芸部長)
8月9日(日)	講演会Ⅱ 「近代絵画の光と影ーベルギーの場合」	本江 邦夫 氏 (多摩美術大学教授)
8月1日(土)	アートシアター 「タンタンの冒険旅行 ビーカー教授事件」	
7月25日(土) 8月15日(土) 8月29日(土)	ギャラリートーク (観覧料が必要)	当館学芸員

※いずれも午後2時より。講演会、アートシアターは無料。